

一般社団法人日本遺伝性腫瘍学会 2025 年度 第 3 回理事会議事録

日 時：2026 年 3 月 13 日（金） 15:00~18:30

場 所：東京都中野区中野二丁目 2 番 3 号 web を活用し開催（zoom）

出席者： 理事長 平田 敬治

副理事長 下平 秀樹 山口 達郎

理 事 有賀 智之 奥川 喜永 川崎 優子 久保 真 隈元 謙介 田辺 記子

中島 健 中山 佳子 平沢 晃 門馬 智之 吉田 玲子

監 事 青木 大輔 石川 秀樹 鈴木 眞一

司法書士 寺本 俊孝

事務局 石坂 和子 内山 寛巳 皆川 裕美

欠 席 小林 佑介

理事 14 名（定足数確認）、監事 3 名が出席し、web（zoom）による出席者の音声即時に他の出席者に伝わり、出席者が一堂に会するのと同様に適時的確な意見表明が互いにできる状態にあり、本会が成立することが確認された。以下、平田理事長が議長となり議事を進行した。

議 事： 【報告・審議事項】

1. 第 32 回学術集会準備状況

井本会長より、指定演題プログラムの公開、共催セミナー9 件の確定、および一般演題の採択が近日中に完了する見込みである旨の報告があった。

2. 理事長報告

平田理事長より、宇都宮讓二先生追悼企画、四国・東北での地方会初開催、他学会との連携、日本医学会への加盟申請（2026 年 5 月～7 月予定）に向けた準備状況、特別アドバイザーの任期について、学術集会における当事者会出展ブースの参加ルール検討について報告・協議が行われた。

3. 庶務報告

資料にもとづき、2026 年 2 月 28 日現在の会員数（2465 名）、新規入会者（28 名）、および会費納入状況（納入率 68%）について報告があった。

4. 各種委員会報告・審議

① COI 委員会：久保理事

資料にもとづき、日本医学会の新指針に準拠した利益相反（COI）管理指針の全面改定案が提示された。組織 COI の導入、対象者の明確化、主要委員会への外部委員導入などが盛り込まれ、次回理事会での最終承認を目指すこととなった。

② 総務委員会：平田理事長

資料にもとづき、通信理事会での「LS 委員会委員変更」の決議、および次期総会での名誉理事長（石田秀行先生）、名誉会員（藤原俊義先生）、特別会員の推戴について報告され、承認された。また、第 33 回（有賀智之先生）および第 34 回（平沢晃先生、今井芳枝先生）の学術集會会長選任についても報告された。

③ 会則委員会：門馬理事

新規臨床委員会（HBOC 関連）の設立について、他学会との関係性を考慮しつつ、規約案の作成を進めることが報告された。

④財務委員会：下平理事

資料にもとづき、2026 年度収支予算案が提示され、収入は例年と比較して若干少ないものの、新規事業や国際的な発信力向上のための投資が計上されており、単年度ではマイナスになる可能性があることが報告された。また、Lynch 症候群レジストリ研究の初期構築費用（100 万円）の補正予算、および新規委員会（HBOC 委員会：仮称）立ち上げ予算（50 万円）の確保について承認された。

⑤編集委員会：小林理事（代理：平田理事長）

資料にもとづき、「遺伝性腫瘍」誌の発行状況、および投稿論文の勧誘状況について報告があった。英文誌創刊については、年間約 500 万円の維持費が財政的負担となる懸念から継続審議とし、当面は和文誌への英文論文の積極的な受け入れで対応することとなった。

⑥ 学術教育委員会：吉田理事

資料にもとづき、第 32 回学術集会での教育プログラム、市民公開講座（金沢、愛知）、および 2027 年度の関連学会合同セッションの企画案について報告があった。

⑦保険診療委員会：吉田理事

資料にもとづき、R8 年度診療報酬改定の答申内容（遺伝性疾患療養指導管理料の新設等）が報告された。また、HBOC 血縁者診断の保険適用に伴い、精度管理基準を満たした LDTs の早期活用を求める要望書の提出が審議され、承認された。

⑧専門医・HTC/FTC 制度委員会

● 専門医制度小委員会：隈元理事

2025 年度専門医試験の結果（CBT 合格率 86%、面接合格率 82%）および専門医更新審査の結果について報告があり、結果について承認された。また不合格者全員に詳細なフィードバックを個別送付予定であるとの報告があった。また、2025 年度の E-learning は、視聴回数が延べ約 3,000 回と前年度比で約 700 件増加し非常に好調であり、次年度の実施については、高い需要を鑑みつつ現在検討中である旨が報告された。

● HTC/FTC 小委員会：川崎理事

認定試験作問委員の追加、単位認定プログラムの表記に関する規則・細則の修正について報告があった。また、遺伝性腫瘍コーディネーターの経過申請・更新申請・認定試験結果について承認された。

⑨遺伝性腫瘍セミナー委員会：中島理事

資料にもとづき、第 4 回アドバンストセミナーの開催報告、および第 29 回遺伝性腫瘍セミナーの準備状況について報告があった。

⑩将来検討委員会：平田理事長

特段の報告事項なし。

⑪ガイドライン委員会：平沢理事

資料にもとづき、Peutz-Jeghers 症候群ガイドラインの改定予定、および学会 HP 内のガイドラインリンク集の改訂、Minds ガイドライン作成支援サービス（動画学習）について報告があり、新規委員の追加について承認された。

⑫倫理審査委員会：奥川理事

資料にもとづき、第 31 回および第 32 回学術集会の演題に対する倫理審査状況、疑義のある演題への対応フローの構築について報告があった。

⑬広報委員会：有賀理事

資料にもとづき、委員会活動内容、ニュースレター配信状況について報告があり、「遺伝とがんについて知ろう」サイトへのリンク掲出と運用保守費の支払いについて審議され、承認された。

⑭作業部会委員会：中山理事

活動中の 5 部会の状況、および満期を迎える部会の継続審議について報告があった。

⑮遺伝カウンセリング委員会：田辺理事

資料にもとづき、がん医療者向け動画の学会 Web サイトへの移行、第 32 回学術集會会期に合わせた遺伝カウンセリング委員会企画の開催、第 34 回日本乳癌学会学術総会におけるコラボレーション企画について報告があった。第 34 回日本乳癌学会学術総会での合同企画参加委員への旅費支給について審議され、日本乳癌学会非会員の合同企画参加委員への旅費支給については承認されたが、日本乳癌学会会員である合同企画参加委員への支給は否決された。

⑯国際委員会：山口理事

資料にもとづき、委員会活動内容、遺伝性腫瘍関連国際学術集會配信について報告があり、第 6 回トラベルグラント賞の選考結果（2 名）が提示され、承認された。

⑰臨床委員会 Lynch 症候群委員会：山口理事

資料にもとづき、レジストリ研究の倫理承認取得状況、Lynch 症候群診療ガイドライン作成に向けた進捗状況、学会合同 Lynch 症候群の診療における意義に関する見解書発出について報告があり、Lynch 症候群研究会（仮称）の開催について承認された。

⑱評議員選出委員会：門馬理事

選出要件の見直しについて検討を進める旨の報告があった。

5. その他

①新規臨床委員会（HBOC 関連）：設立に向け、JOHBOC 理事長との面談を実施し、通信理事会もしくは 6 月の定例理事会での審議・承認を目指すこととなった。

②2026 年度の理事会日程：第 1 回は開催日が決定（6 月 11 日、木曜）。第 2 回、第 3 回については 10 月、3 月で日程調整することとなった。

以上をもって議事の全部を終了し、議長は 18 時 30 分閉会を宣した。

以上議事経過ならびに結果を明確にするため本議事録を作成し、理事長および出席監事は次に記名押印する。

以上